

神鋼鋼板加工

「安全衛生優良企業」認定取得

神鋼鋼板加工(本社・千葉県市川市二俣新町、社長・近藤眞一氏)は、厚生労働省から7月25日付で「安全衛生優良企業」に認定された。直近3年間、労働者の健康保持増進やメンタルヘルス、過重労働に関する諸対策および安全管理など多岐にわたり国が定める約80項目で高い基準を満たしつつ、独自の取り組みも含めて総合的に評価された。厚板シャワー・溶断業界および神戸製鋼所グループとして初の認定取得になる。



千葉労働局長(左から2人目)と神鋼鋼板加工の3人が記念写真

「これまでも「安全は全てに優先する」を合言葉に、親会社の神戸製鋼所の指導も受け安全リスクアセスメント活動による危険要因の抽出と排除を長年にわたって実践。さらには独自に計画的な安全対策投資も行ってきた。」

「安全見える化」推進
特に2020年度からは「安全活動のさらなる周知徹底と意識づけ、風化防止」を目的とした独自の『安全見える化活動』を推進。

これは「労働安全や危険防止に関する種々の掲示や呼びかけをあらゆる場所で行い、否応なく目に入る仕組みづくり」であり、一例だが、リアルタイムでの生

業界初、独自対策も奏功



デジタルサイネージも活用し安全意識を向上

無災害記録も更新中
このほかにも第三者からの評価などを「褒められポイント」に掲示したり同業他

工場内には「気づきカメラ」を死角が生じないように20カ所に設置。撮影した動画映像は7カ月間保管でき、不安全行動の振り返り指導や危険予知訓練などに活用している。フォークリフトやクレーンには「LEDライト(3色)」を取り付け、動作中にライトを照らすことで危険エリア内への人の進入を抑制する。

認定は千葉県に本社を置く企業としても2例目のこと。今後の採用活動へのPRポイントにもしたい考え。

産状況把握や情報共有を目的に工場・事務所に計8カ所設置したデジタルサイネージ(電子掲示板)に、全社安全標語や社員の安全宣言、無災害記録日数なども表記し、啓発に努めている。

また、社内向けに「安全品質カレンダー」を作成。ここに社員が応募した安全標語や品質標語を月替わりに載せるとともに過去に発生した災害事例も羅列して風化を防ぐ。



フォークリフトにLEDライトを取り付け

社との「安全交流会」を開催したりして土気高揚を促進するなどあらゆる手段を講じて安全意識の徹底を図っている。

こうした取り組みが奏功し、連続不休災害日数も10月5日時点で1665日を記録。また、現場の生産性も向上しているという。

同社では「これまでの安全活動によって国から『ホワイト企業』のお墨つきを